

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	特定非営利活動法人 ソーシャルサポートセンターひょうご 児童発達支援わかば西神戸			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日 ～ 2025年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様1人ひとりの「やってみたい」という気持ちを大切に支援していること	遊びや日常生活の中に、運動・感覚・ことば・認知・人との関わり等に繋がる経験を取り入れ楽しみながらさまざまな力を育めるよう活動内容を工夫している	日々の記録の中で職員だけでなく保護者も共有していただけるように写真や動画で記録を残しお子様の小さな成長や変化も共有できるようにする
2	身支度や片付け、食事・排泄などの、子どもの発達段階に応じて日常生活に必要な基本的な力を身につけられるよう支援している	お子様自身が分かりやすく、自ら行動しやすい環境を整え、必要に応じて視覚的な手がかりや声かけ等を行いながら「自分でできた」という経験に繋げている	家庭での様子についても保護者と共有し、事業所だけで出来ることを増やすのではなく家庭や園などの実際の生活場面にもつながる力として定着できるように支援をする
3	保護者とのコミュニケーションを大切にし、家庭での様子や困りごと、お子様の成長について共有しながら支援を行っている	送迎・面談時を通して保護者と情報の共有をすること 必要に応じて保育園や幼稚園・認定こども園等の関係機関とも連携し子ども全体を捉えた支援を意識している	保護者や関係機関との情報共有を更に充実させ、今後の進路を見据えながら、就学先とも連携を強く持ち、お子様が安心して進学先にて力が発揮できるように支援していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の年齢層や経験年数に一定の偏りがあり、多様な世代や経験に基づいた視点を支援に取り入れていくことが課題である	職員の構成上、年齢層やこれまでの経験に近い職員が多く、子どもの支援や保護者支援について多角的な視点を取り入れる機会が限られる場合がある	法人内の他事業所との交流や事例検討・研修等を利用してさまざまな経験や知識を共有する機会を設ける また、今後の採用等においても、多様な経験を持つ人材の確保を意識していく
2	事業所の構造やスペースに限りがあり、音の刺激に敏感なお子様落ち着いた過ごす事ができる専用スペースを十分に確保することが難しい	活動スペースを複数のお子様利用しているため、感覚過敏の渡航制のあるお子様に対して、刺激を完全に分けた環境を常時確保することが難しい	パーティションや机等の配置・活動場所などを調整し、刺激を軽減できる環境作りを進める 一人ひとりの感覚特性を把握し必要に応じて落ち着いた過ごす場所や活動方法を個別に検討する
3	一人ひとりの発達特性や感覚特性に応じた個別的な配慮と、集団での活動や他児との関わりの機会を両立させていくことが課題である	お子様によって刺激への感じ方や活動への参加方法、必要な支援量が異なるため、同じ活動の中でも個別の環境調整や関わり方が必要となる	活動内容やグループ構成、職員は一等工夫すると共に子どもの状態に応じて「集団に参加する時間」と「個別に落ち着いて過ごす時間」を柔軟に設定し無理なく活動に参加出来る環境作りを進める